

全国553  
5357  
1-11111111

# 山内エコクラブがダブル受賞 準グランプリと子ども部門最高賞



山内小学校の児童でつくる「山内エコクラブ」が、「全国いい川・いい川づくりワークショップ」で行ったふるさとの水文化の素晴らしさを伝える発表で、準グランプリと子ども部門の最高賞・森清和賞を受賞しました。  
当市は、琵琶湖の源流の地として深山を守り、そこから湧き出る清らかな水を届けています。山内川も野洲川の支流のひとつとしてその役割を担っています。  
自然豊かで美しい山や川は、かけがえのない財産であり、大切な風景でもあります。今回の受賞は、山内地域だけではなく、当市にとっても輝かしい賞となりました。

「いい川・いい川づくりワークショップ」は、7月7日の「川の日」を記念して市民実行委員会により開催されている「いい川・いい川づくりワークショップ」。

この大会は、「いい川、いい水辺」とは何かを広く全国の皆さんに問いかけ、事例や事業、思いを持ち寄り自由にその答えを探っていくこととする公開選考会です。  
今年のワークショップは、9月21日、22日の2日間、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、全国から河川や水環境保全活動をしている50の団体が参加しました。

選考のポイントは、①「いい川」をめざすための斬新な発想  
②地域住民と川との豊かで良好なかかわり合い③「いい川」を育むための住民参加やさまざまな分野の人たちとの協働のプロセス④川らしさの保全やいい川回復のための計画手法、の4つで、内容の長所を評価する加点方式

で審査されます。  
山内エコクラブの発表では、地域の水文化について、水問題だけでなく、農村文化を次世代に活かす提言を行ったことが評価され、受賞につながりました。

## 地域の良さを再発見しよう

山内エコクラブは、地域の良さを再発見し、その魅力を広めようと、今年4月に発足。メンバーは山内小学校の子どもと地域の人や山内の関心のある人です。  
今年の活動は「山内の水文化」がテーマ。現地調査も多く、活動は主に平日の夜や休日に行われています。現在、県エコクラブ交流会や近畿子ども水辺交流会に向けて、ジャンボ絵本「鈴鹿物語」づくりに取り組んでいます。  
今後は、山内ふれあいコンサートや昭和の風景を再現する「山内ふるさと絵図」づくり、「山内田舎レシビ集」づくりも計画されています。

## 発表内容

### 山内の水と暮らし 山内の水文化はすばらしい

#### ふるさとの清流・山内川

地域に流れる山内川(田村川)は琵琶湖に注ぐ野洲川の支流で、絶えず美しい水が流れています。清流にすむ水生昆虫やアユ、イワナがいて、源流にはサンショウウオもすんでいます。また大昔、海だったと言われるこの辺りからはイロカや貝の化石などがたくさん見つかります。

#### 山内の水と暮らしの 関わりを調査

エコクラブでは、山内の水が暮らしとどう関わってきたかを調べました。そして昔の人の思いをこれらの暮らしに生かすにはどうしたらよいかを考えました。  
まず、お正月に供えるお鏡の場所について、今と昔の様子を聞くため、地域内の約150軒を対象にアンケート調査をしました。そ

の結果、昔は井戸、山、田んぼ、と大切な水に供えていたということが分かりました。

また、お年寄りへの聞き取り調査で、地域に伝わる「花笠おどり」は、雨乞いの踊りだということが分かりました。人手不足でなくなっている字もあるそうです。

他にも、山内川(田村川)と野洲川の水質や生き物、産業との関わりなどを調べたり、水と人の関係について家族や老人会の人と話し合ったりしました。昔は、田や風呂、台所の水、牛にやる水など、水はとても大事なものでした。しかも川や井戸から汲み、手で運んでいたそうで、昔の人の水への思いを知ることができました。

#### 水文化を伝えていくために 私たちにできること

お鏡を供えたり花笠おどりに参加したりと、川や山水の取水口を大切にしている行事に参加することで、地域の水文化が伝わっていくと思います。調査で分かったことを友達や地域の人などに知らせていき、水を大切にしようと呼びかけていきたいと思います。

## 準グランプリ受賞名は 「歌うように水の伝統文化の 宝を伝える感動的演技で賞」

東京での発表には、クラブを代表して、5年生の竜王みやびさん、大畑菜美さん、北岡秀典さんと保護者2名が出席、井阪校長も応援に駆けつけました。児童たちは、地域の水文化について寸劇仕立てで発表し、校歌や鈴鹿馬子唄を歌い、ふるさと意識をアピールしました。発表した児童の皆さんと校長先生にワークショップの様子や感想をお聞きました。

台本やパネルの準備に本番1週間前までかかり、行きの新幹線でも発表の練習をしました。

1次審査では、校歌を歌い、準備した原稿をもとに、持ち時間3分で発表し、2日目の2次審査へ進むことになりました。夜の交流会では、審査員を見つけては名刺を渡しながらアピール。激戦が予想される2次審査に向けて、宿舎では夜遅くまで原稿を組み立て、発表の練習をしました。2次審査では、鈴鹿馬子唄を歌



▲授賞式を終えて(右から北岡さん、竜王さん、大畑さん、井阪校長)

少人数ならではの山内小の学びと豊かな演技力で、子どもたちは見事に山内地区の暮らし文化を表現しました。昔の様子や今に伝わる祭りの意味に気づき、次代に伝えようとする子どもたちの思いに加え、自分の言葉でふるさとを語る教育的意義が評価されたと思います。(井阪校長)